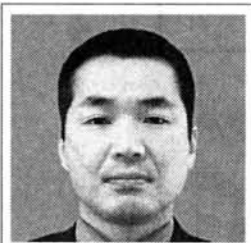


地域 誌

いわて
論壇

安倍 富士男



あべ・ふじお 1962年、宮城県生まれ。88年、東北学院大学院学修了後、盛岡白百合学園に。98年から岩手大教育学部の非常勤講師として、教育現場での活用などをおこなっている。

たちは予想以上に生き生きと反応してくれた。IT教育といえは、教室にこもってコンピュータ操作に終始しがちだ。しかし、それは手段と目的を取り違えた本末転倒のことだと思ふ。

もちろんコンピュータに触れることは大事なのだが、それ以上に、コンピュータを使って子供たちの可能性を広げることが重要だ。

自らの試みを通

して、そう痛感した。岩手は自然、歴史、文化のいずれにおいても豊かな資産を持っている。これらを相互に結びつけてくれるものが情報であり、人であろう。岩手のすばらしさを再発見し、生かしていくためにも、私たちが「IT教育」に工夫をこらし、情報を上手に活用できる、これからの「いわての人」を育てていかねばならないと思っている。

盛岡白百合学園 中学高校教諭

「人間」育てるIT教育を

「教育の情報化」が急激に進んでいる。私の勤務する学校は一九九五年、授業にインターネットを採り入れた日本初の試み「インターネット百校プロジェクト」に参加し、一足早く「IT(情報技術)教育」に取り組んだ。

はじめは、世界の中高生との電子メール交流や必要な情報の探し方、ホームページづくりなどを授業で扱ってみた。だが、どうも教室に閉じこもっていることに窮屈さを感じた。「教育の可能性を探りたい」との欲求も高まり、

自身が三陸町綾里の水深七郎の海に潜り、インターネットや通信衛星の高速回線を使って、水中カメラの映像と音声を五校の教室にいる計百二十人の小学生に届けた。教室からは海底の私にメールで質問を投げかけてもらい、それに答える形で授業を進めた。

焦の「奥の細道」を題材に、全国の中学生と共同学習授業を続けている。松島、石巻、平泉の映像を私の解説つきでホームページで紹介し、メールで「芭蕉が中尊寺まで来たのはなぜか」といった意見交換をしている。

教室から出てみると、子供には意識しておかねばならないのではないか。

また、行政担当者や教師、企業、大学などの情報担当者をつくる非営利の協議会の設置を望みたい。IT教育には高い専門性が求められるため、教師個々の知識や努力だけでは教育の実を十分にあげることは難しいから

だ。「情報」にかかわる県内の有識者との幅広い意見交換により、足りない部分を補い合うことができるだろう。